

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

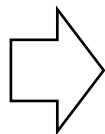
②-6 施設園芸の生産性・収益性の向上

○ 多様な支援による園芸産地の基盤強化への取組(安足地域)

- ・ 収益性の高い園芸産地を目指し、市、農業協同組合、農業振興事務所が連携して技術支援や産地生産基盤パワーアップ事業等の活用による施設や機械の導入を進め、いちごなど施設園芸への新規参入、規模拡大に取り組んでいます。
- ・ 加えて、遊休ハウスのマッチングシステム構築と補助事業を活用したリフォーム支援により、新規参入者が就農しやすい環境づくりに取り組んでいます。



リフォーム



- ・ リフォーム前後のハウス
- ・ 空きハウスをリフォームし活用することで、新築よりも安価に規模拡大や新規就農が可能となり、産地の基盤強化へ寄与

(安足農業振興事務所)



(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

③-1 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大 ※トピックス(2)と関連

○ 土地利用型園芸産地育成セミナー(サツマイモ)を開催

- 土地利用型園芸産地の拡大を図るため、近年ニーズが高まっているサツマイモの生産・販売に関するセミナーを令和3(2021)年12月9日に開催しました。
- セミナーには、約80名が参加し、需要動向や栽培技術、契約取引の留意点等について理解を深めました。
- また、活発な意見交換も行われ、更なる産地の拡大が期待されます。



セミナーの様子



参加者間での意見交換

(生産振興課)



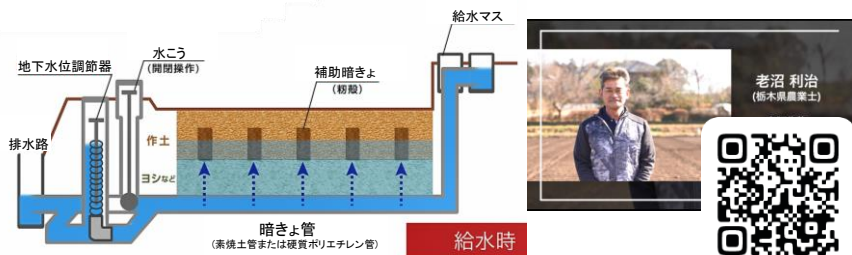
(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

③-2 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大 ※トピックス(2)と関連

○ 地下かんがいシステムの実証(その1)

- 水田を活用した露地野菜の生産拡大に向け、既存の暗きょ排水施設を利用した「栃木県型地下かんがいシステム」の有効性(作物の収量向上、排水性の向上)を確認する現地実証を佐川南地区(野木町)他3地区で行いました。
- 佐川南地区では、本技術の導入により、スイートコーンの増収率は1.2倍となり、水田で畑作物の安定生産が可能になりました。
- 今後、産地収益力の向上に向け、本技術の導入を推進していきます。



地下かんがいシステムの構造図

動画で生産者の声が確認できます

(農地整備課)

○ 地下かんがいシステムの実証(その2)

- 那須地域では、園芸作物の導入促進のため、地下かんがいシステムを導入したほ場を活用して、ねぎ栽培の実証結果やICT水管理システム等のスマート農業機器の紹介などの研修会を開催しました。
- 参加した担い手等の農業者からは、水管理の効率化、排水対策などを望む声や技術への期待感、基盤整備と合わせて導入する必要性の声がありました。
- 引き続き、研修会等を通じて農業者等への理解促進を図ります。



ほ場での研修の様子



ロボット草刈機の紹介

(農地整備課)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

③-3 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大 ※トピックス(2)と関連

○ 土地利用型園芸メガ産地の確保・育成(芳賀地域)

- 令和3(2021)年9月、真岡市の土地利用型園芸モデル産地と、安定的な農地確保を目指す足利市の生産者が連携した「菅谷・前橋 真岡メガファーム」が組織され、補助事業を活用した県内初の土地利用型園芸メガ産地づくりに着手しました。
- 今後はねぎを中心にキャベツ、にんじんの加工・業務用出荷を強化し、3年後には90ha超の作付けにより、価格交渉力のある強い産地を目指します。



キャベツ乗用収穫機

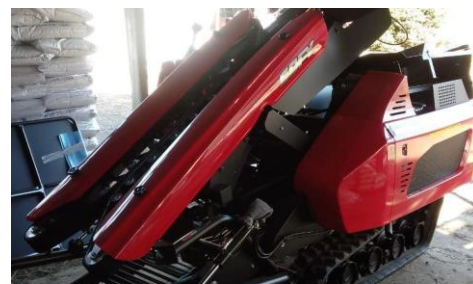


ねぎ乗用管理機

(芳賀農業振興事務所)

○ 新たに2産地が「産地づくり基本構想」を策定(下都賀地域)

- 水田を活用したねぎの産地化を目指すため、栃木市と下野市の生産組織が「産地づくり基本構想」を策定し、取組を開始しました。
- 下都賀地域では、ねぎの他、レタスやじゃがいもなどを生産する7組織が露地野菜の生産拡大に取り組んでいます。
- 今後も、出荷調整施設の整備や機械の導入などを通じて土地利用型園芸の振興を図ります。



ねぎ収穫機
(下野市の組織)



調整後のねぎ
(栃木市の組織)

(下都賀農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

③-4 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大 ※トピックス(2)と関連

○ 実需者と生産者のリモートマッチングを支援 (下都賀地域)

- 青果物の販路を求める生産者と実需者を結びつけるため、信頼関係の構築に向けたマッチング支援を行いました。
- コロナ禍のもと、積極的にリモート機器を活用しました。
- マッチングでは、規格や荷姿・流通形態などについての意見交換が行われ、中には、商談・取引に発展したケースもありました。
- 今後も、生産者と実需者の架け橋となって収益力の高い園芸の振興を図っていきます。



リモート



対面

マッチングの状況

(下都賀農業振興事務所)

○ 下稲葉地区専門家派遣事業講習会を開催 (下都賀地域)

- 令和3(2021)年11月17日に、圃場整備事業に取り組んでいる下稲葉地区(壬生町)で専門家派遣事業講習会を開催しました。
- (株)流通研究所の有山上席研究員を講師に招き、「農産物の需要動向」をテーマとした講演には22名の土地改良区関係者が参加しました。
- 今後も、土地利用型園芸の振興に向けた地域への働きかけを進めていきます。



講演会の状況



大区画で整備されたほ場

(下都賀農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

③-5 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大 ※トピックス(2)と関連

○ 新たなさつまいも生産部会の設立(塩谷南那須地域)

- 令和3(2021)年3月に設立された「JAしおのやさくらさつま芋部会」は、県内の干し芋加工企業と連携し、さつまいもの産地振興に取り組んでいます。
- 水田を活用した新たな露地野菜の産地作りの事例として周囲から注目されるとともに、遊休農地解消にもつながると期待されています。



定植作業の様子



収穫作業の様子

(塩谷南那須農業振興事務所)

○ 成果を上げるほ場見学会(塩谷南那須地域)

- 塩谷南那須地域では、管内の2JAと連携し、ほ場見学会を開催しています。
- 令和3(2021)年度は、ねぎ、にら、さつまいも、なすなど、19品目で23回のほ場見学会を開催し、各品目の特徴や栽培技術、機械化体系等について理解を深めました。
- ほ場見学会は、新規栽培者の着実な確保につながっています。



さつまいもほ場見学会



ねぎほ場見学会

(塩谷南那須農業振興事務所)

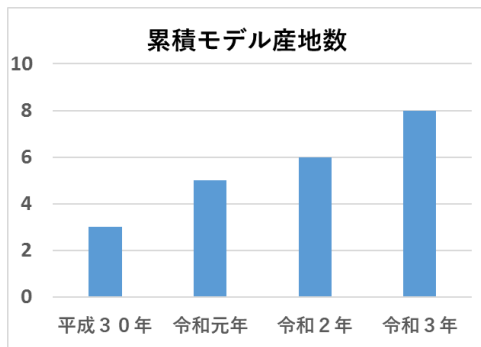
(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

③-6 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大 ※トピックス(2)と関連

○ 増える露地野菜モデル産地(塩谷南那須地域)

- 露地野菜産地育成の取組を進めた結果、「産地づくり基本構想(3年後の作付け目標などを定め、産地の拡大を目指す構想)」を策定したモデル産地が増加しています。
- 令和3(2021)年度には、新たに2産地(さつまいも、ねぎ等)が基本構想を策定し、累計モデル産地数は8産地となりました。
- 各産地は県単補助事業を活用し、省力化機械の導入等を進めています。



モデル産地
JAしおのや枝豆研究会
(塩谷南那須農業振興事務所)

○ 土地利用型園芸推進セミナーの開催(塩谷南那須地域)

- 需要が減少傾向にある「主食用米」から、国産需要が高まっている「露地野菜」等への品目転換を図り、安定した経営体育成を推進するため、1月27日に推進セミナーをオンラインで開催しました。
- (株)ひじや農園(小山市)の土屋代表取締役から野菜経営のポイントの講演のほか塩谷南那須地域の二人の生産者の意見交換により、生産者および関係機関・団体の野菜生産に対する理解が深まりました。



塩谷庁舎からの
中継の様子



土屋氏と生産者との意見交換
(塩谷南那須農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

④-1 低コスト生産による稲・麦・大豆の競争力の強化

○ 水稲多収品種の生産性、コスト低減の実証

- 主食用米の需要が減少する中、水田における収益力向上を図るため、6地域で水稲多収品種の導入によるコスト低減を実証しました。
- 実証の結果、水稲多収品種の収量は約660kg/10aとなり、低コスト化技術と組み合わせることで所得が約2割向上しました。
- 今後、水稲多収品種の導入を進め、産地間競争力のある水田農業を展開していきます。



ドローンによる追肥



多収品種現地検討会

(生産振興課)

○ 粃米サイレージ給与技術研修会の開催

- 配合飼料価格が高騰している中、県では畜産農家の飼料費削減のため、粃米サイレージの普及拡大に取り組んでいます。
- 粃米サイレージは、生粃をそのまま破碎・発酵させた新しい飼料で、農業者の理解醸成に向けて、調製方法や給与方法に関する研修会を開催しました。
- 今後とも、粃米サイレージを始め、水田を活用した自給飼料増産の取組を推進していきます。



オンライン研修会の様子



粃米サイレージ

(畜産振興課)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

④-2 低コスト生産による稲・麦・大豆の競争力の強化

○ 事業を活用し麦・大豆の作付拡大と団地化を推進(塩谷南那須地域)

- 農業者の高齢化に伴い、担い手への農地集積が急速に進む中、那珂川町では、3名の担い手が令和3年度に水田麦・大豆産地生産性向上事業を活用してシーダーやコンバイン等の機械を導入し、麦・大豆の規模拡大を図っています。
- 人・農地プランの話合いの中で、機構集積協力金等を活用しながら、麦・大豆の団地化を進めています。



大豆圃場



事業を活用して導入した大豆収穫用コンバイン

(塩谷南那須農業振興事務所)

○ 飼料用米の作付と多収品種の利用が拡大(安足地域)

- 各市農業再生協議会構成機関・団体の連携のもと、主食用米から飼料用米への作付転換を推進した結果、水稲作付に占める飼料用米の割合は、令和2(2020)年産の19%(616ha)から30%(942ha)に増加しています。
- 飼料用米生産における戦略作物助成の数量払い額向上を図るため、多収品種「にじのきらめき」と「ほしじるし」の導入を推進し、多収品種の作付は令和2(2020)年産比436%の84haに増加しています。



多収品種現地検討会



多収品種「にじのきらめき」

(安足農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

④-3 低コスト生産による稲・麦・大豆の競争力の強化

○ 地元食品企業と農業協同組合等が連携したもち性二条大麦の作付拡大(安足地域)

- 佐野市では、平成30(2018)年産から地元食品企業及び農業者、農協が連携して、栃木県が育成したもち性二条大麦「もち絹香」の栽培を始め、年々、作付面積を増やしています。
- 令和3(2021)年産の作付面積は、保管施設不足等の影響から令和2(2020)年産より微増の82haとなったものの、令和4(2022)年産は、流通安定コンソーシアムの設立と保管施設の改修を受けて96haまで増加し、更なる作付拡大が見込まれます。



「もち絹香」の収穫風景



定温保管施設の全景

(安足農業振興事務所)



(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤-1 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ 家畜人工授精に関する講習会を開催

- 家畜人工授精師を養成するため、令和3(2021)年7月1日から8月6日の期間、畜産酪農研究センターにおいて、令和3(2021)年度栃木県家畜人工授精に関する講習会を開催しました。
- 県内の畜産農家など20名が講習会に参加し、家畜人工授精に関する座学と実習に意欲的に取り組み、受講生全員が修業試験に合格しました。
- 今後、受講生の活躍による本県飼養牛における改良の推進が期待されます。



実習（乳牛の直腸検査）に励む受講生
(畜産振興課)

○ 酪農担い手確保推進協議会を開催

- 栃木県の酪農における担い手の確保・育成を推進するために、令和3(2021)年8月に酪農関係団体・市町・県で構成する栃木県酪農担い手確保推進協議会をオンラインで開催しました。
- 当日は、酪農の後継者育成に係る事例紹介の他、令和2(2020)年度に新規参入で就農された前田匡彦氏にご自身の体験談について講演いただき、就農時に活用した支援策など具体的な事例を共有することができました。



酪農の新規参入で就農された前田氏夫妻
(畜産振興課)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤-2 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ 牛伝染性リンパ腫(EBL)清浄化対策推進中

- EBLは全国的にも感染率が高く、経済的損失の大きい牛の病気です。県では令和元(2019)年から、牛飼養農場におけるEBL清浄化対策に重点的に取り組んでいます。
- また、令和3(2021)年度から、県内酪農家を対象に、EBL陰性農場から陽性農場に陰性牛を供給することによってEBLの清浄化を図る事業を開始しました。



EBL清浄化達成農場における防虫ネットの設置風景

(畜産振興課)

○ 知事認定獣医師制度が開始

- 本県における豚熱発生を予防するため、令和2(2020)年2月から家畜防疫員(県職員)によるワクチン接種を実施してきました。
- 令和3(2021)年10月から現行の接種に加え、知事が認定した民間獣医師(知事認定獣医師)もワクチン接種が可能となりました。
- 豚熱のワクチンをより効果がある時期に接種することを目指し、今後も防疫体制を強化していきます。



豚熱ワクチンと連続注射器



子豚へのワクチン接種

(畜産振興課)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤-3 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ 野生イノシシへの豚熱経口ワクチンを散布中

- 野生イノシシを介した豚熱ウイルスの拡散を防止するため、令和元(2019)年12月から野生イノシシに対して、豚熱経口ワクチンを散布しています。
- 散布場所は、県北、北東部を中心に、地中に埋設する地上散布を実施しています。
- 人の手による散布が困難な急峻な山間部には、ヘリコプターからの空中散布を実施しています。



散布作業風景



経口ワクチン



イノシシによる
摂取痕

(畜産振興課)

○ スマート酪農牛舎を整備

- 畜産酪農研究センターでは、ICT等を活用したスマート酪農の普及・推進に必要な技術開発を行うため、搾乳ロボット、環境制御システム、餌寄せロボット等を備えた「スマート酪農牛舎」を整備しました。
- 今後は関係機関と連携し、「暑熱対策技術の開発」や「疾病の予防・早期診断技術の開発」、「精密飼養管理技術の確立」などの試験研究を進めていきます。



スマート酪農牛舎



搾乳ロボット

(畜産酪農研究センター)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤-4 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ 極短穂品種導入による稲WCS高品質化及び生産・利用推進の取組(河内地域)

- 家畜飼料の高騰に伴い、稲WCS等の自給飼料の生産拡大が求められています。
- 稲WCS新品種「つきすずか」について、栽培方法と肉牛への給与方法の2つの展示ほを設置すると共に、その成果を現地検討会で広く普及しました。
- 共同収穫作業に新規就農者が加わるようにコーディネートする等、作付け拡大を支援した結果、「つきすずか」の作付け面積が3年間で25ha増加しました。



稲WCSを食べる肉牛



稲WCS収穫調製作業

(河内農業振興事務所)

○ 稲WCS用新品種「つきすずか」、「つきはやか」の採種の取組(下都賀地域)

- 近年、良質な発酵が期待でき、粳の割合が低い「つきすずか」、「つきはやか」などのWCS用稲のニーズが高まっています。
- しかし、これらの品種は粳数が少ないという特徴があるため、普及拡大のためには、安定的な種子生産が課題となっています。
- このため、農協や生産者の皆さんと生育調査を行い、結果の検証を行うなど、安定的な種子の確保に向けた検討を進めています。



生育調査の状況



つきすずかの草丈は平均160cm

(下都賀農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤-5 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ スマート酪農現地研修(経営技術改善セミナー)を開催(那須地域)

- ・ 畜産経営を行っている青年農業者を対象に、スマート酪農現地研修を開催しました。
- ・ 酪農家の牛舎で行動測定機器を装着した牛を観察しながら、利用者からは、経営改善の効果を感じている点等について説明があり、メーカーからは、牛の行動測定機器の利用方法や他農家の活用事例等について紹介がありました。
- ・ セミナーの参加者からは、多くの質問が出るなど、経営改善につながる活発な情報交換が行われました。



行動測定機器を首に装着した牛



牛舎内での説明の様子

(那須農業振興事務所)



(4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

①-1 農産物のブランド力向上と競争力の強化

○ 全雌三倍体サクラマスの名称「銀桜(ぎんおう)サーモン」に決定

- 水産試験場が管理釣り場向けに開発した「全雌三倍体サクラマス」の名称を、「銀桜サーモン」に決定しました(45都道府県2,021点の応募、令和4(2022)年3月に商標登録)。
- 「銀桜サーモン」の特徴
 - ①大型に成長(全長約50cm、2kg)
 - ②姿、色が美しい(銀色に輝く)
 - ③釣り味が良い(引きが強い)



名称発表 令和4(2022)年4月 (農村振興課)

○ 「いちご王国・栃木」プロモーションの実施、 「いちご王国」アンバサダーの任命

- 「いちご王国・栃木の日」である1月15日には、オンラインイベントのほか、県内、首都圏、関西圏においていちごの販売イベントを同時に開催しました。
- 新たに「いちご王国」アンバサダーを10名任命し、魅力を最大限に引き出すPRのあり方などを共に創り上げました。
- いちご一会とちぎ国体冬期大会では、関係者へ「とちおとめ」を配布するとともに、会場にいちごプランターやオブジェを設置し「いちご王国・栃木」をPRしました。



「いちご王国・栃木の日」
記念イベント



「いちご王国」アンバサダー
(経済流通課)

(4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

①-2 農産物のブランド力向上と競争力の強化

○ オリジナルアバターでいちご王国をPR

- コロナ禍でも販促可能な非接触型の接客システム「いちご王国」オリジナルアバターを構築し、首都圏や関西圏などにおいて県産いちごのPRを行いました。
- 「とちぎのいちご」に関する情報を一体的に発信するため、ウェブサイト「いちご王国」総合サイトを開設し、情報発信力を強化しました。
- 「いちご」と「とちぎの星」をPRする動画をそれぞれ制作、広告配信し、県産農産物の魅力を発信しました。



オリジナルアバター「栃おとめ」



「いちご王国」総合サイト

(経済流通課)

○ 首都圏の駅や百貨店で県産農産物をPR

- 首都圏駅構内において、JR東日本の取組と連携したいちごスイーツフェアや産直市を開催したほか、関西圏百貨店においていちご等の販売を行うなど、全国において県産いちごのPRを行いました。
- 首都圏、関西圏の飲食店においては、県産農産物メニューフェアを開催し、県産農産物の飲食店での活用促進と消費者へのPRを図りました。
- 今後も様々な手法により、農産物の消費拡大につながるPRを展開していきます。



県産いちごの産直市（JR上野駅）



関西メニューフェア

(経済流通課)

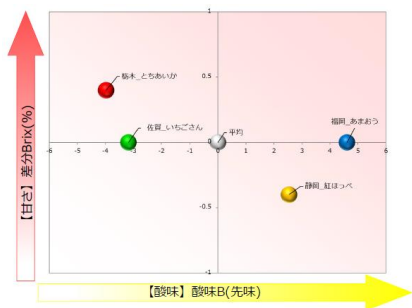
(4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

①-3 農産物のブランド力向上と競争力の強化

○ 県産農産物のユニークセリングポイントの発掘

- 県オリジナル品種の特長を発掘するため、「とちあいか」、「もち絹香」、「ゆめみどり(冬作)」の科学的手法による分析調査を実施しました。
- 学識経験者等によるプロジェクトチームを設置し、分析結果を基に、「とちあいか」、「もち絹香」の特長を選び出し、ターゲット像やプロモーション手法等の検討を行いました。
- 引き続き、更なる分析・検討を進め、ユニークセリングポイントの効果的な活用を図ります。



分析結果の一例



プロジェクトチームによる検討会

(経済流通課)

○ 花きの需要創出の取組

- 県内の花き生産者を支援するため、花きの新たな需要の創出に向け、県庁舎や各市町庁舎、JR宇都宮駅及び日光駅、東武日光駅において、県産花きの飾花展示を実施しました。
- また、道の駅うつのみや及びとちぎ花センターでは、県産花きの飾花展示のほか、県産花きの魅力発信と販売促進に取り組みました。



県庁舎での飾花 (1月)



道の駅(ろまんちっく村)での飾花及びPR販売

(生産振興課)

(4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

①-4 農産物のブランド力向上と競争力の強化

○ 県内乳業メーカーがA2ミルクを販売

- A2ミルクは、飲んだ時に「おなかがゴロゴロしにくい」ことが特徴とされています。
- A2タイプの遺伝子を持った牛を選抜してミルクを生産する必要があり、全国的にもA2ミルクの販売事例は少ない中、令和3(2021)年度に県内乳業メーカーがA2ミルクの販売を開始しました。

両毛酪農業協同組合
「おなかにやさしい牛乳」

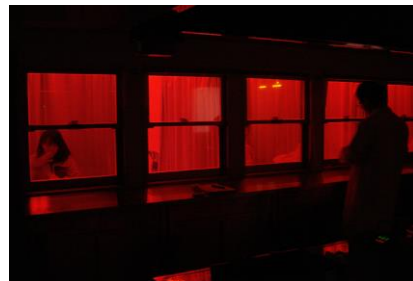
- 300ml及び900mlの製品を販売
- 生乳本来の味を活かす製法として、搾乳した牛乳をホモジナイズ（乳脂肪の均質化）せずに、殺菌は95℃、15分間の高温保持殺菌を実施



(畜産振興課)

○ 養豚経営者と連携した豚肉の官能評価

- 畜産酪農研究センターでは、消費者が求める豚肉や食肉製品の生産・販売を支援するため、養豚経営者の要望に応じて、豚肉やハム・ソーセージの品質特性について官能評価等の分析を行っています。
- 今後は、味覚センサー測定を追加して分析項目を増やすとともに、新たに試験研究を行ってデータを活用し、本県独自の豚肉の評価指標を確立します。



分析型官能評価



味覚センサー

(畜産酪農研究センター)

(4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

①-5 農産物のブランド力向上と競争力の強化

○ 高品質米「山田錦」の出荷と栃木県限定「獺祭」の販売が開始(下都賀地域)

- (株)山田錦栽培研究所(下野市)は、山口県の蔵元((株)旭酒造)と契約し、酒米「山田錦」を生産しています。
- この山田錦は、「最高を超える山田錦プロジェクト」((株)旭酒造)で毎年入賞するなど、高品質を維持しています。
- 特に、令和3(2021)年産は、特等・1等で85%を占めるほど品質が良く、その魅力を知ってもらうため、(株)旭酒造は栃木県限定醸造・販売を開始しました。



収穫前の山田錦の現地検討会



(下都賀農業振興事務所)

○ いちご王国とちぎ 栃木プレミアムの取組(安足地域)

- 令和2(2020)年度の(株)佐野観光農園に続き、令和3(2021)年度にはJA佐野苺部会が栃木プレミアム農産物生産者団体として認証されました(いちご「スカイベリー」)。
- 定期的な糖度検査に合格した「スカイベリー」のみが栃木プレミアムとして出荷されます。形や見た目だけでなく、おいしさもわかるため、有利販売につながることを期待されます。



愛らしいスカイベリー



スカイベリーの栽培風景

(安足農業振興事務所)

(4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

②-1 農産物の輸出拡大 ※トピックス(3)と関連

○ いちご「とちあいか」の初輸出

- 新品種の「とちあいか」は、国内で本格出荷が始まり、今後も面積拡大による生産量の増加が見込まれるため、新たな販路として初めて輸出に取り組みました。
- マレーシアなどアジア圏を中心にテストマーケティングを行い、バイヤーから品質や食味について良好な評価を得ることができました。
- いちごの販売単価の安定を図るため、継続した輸出につなげていきます。



初輸出した「とちあいか」



海外での販売の様子

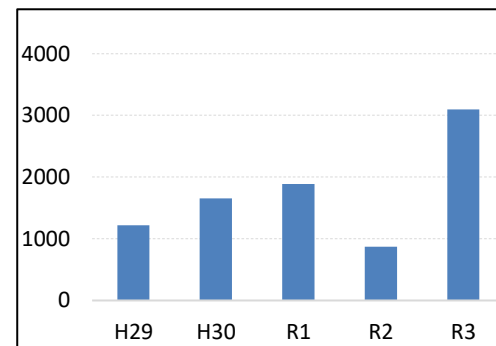
(経済流通課)

○ 梨「にっこり」の輸出が過去最高

- 令和3(2021)年度の梨「にっこり」の輸出額は、約3,000万円で過去最高となりました。
- 春先の凍霜害の影響があったものの、受粉対策やその後の天候にも恵まれ順調に生育し、輸出拡大に貢献しました。
- また、コロナ禍の中、ECサイトを活用したプロモーションなどの取組により、海外での認知度が向上し好調な販売につながりました。



海外での販売の様子



「にっこり」輸出額の推移

(経済流通課)

(4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

②-2 農産物の輸出拡大 ※トピックス(3)と関連

○ 新たな品目のテストマーケティング

- 県産農産物の新たな販路を構築するため、輸出の開始を目指す生産者を公募し、カンボジアにおいて4品目をテストマーケティングしました。
- 海外バイヤー等の意見を生産者にフィードバックし、本格的な輸出に向けた取組を支援しました。
- いちご「ミルキーベリー」、中玉高糖度トマト、チーズやパックご飯など新たな品目の輸出につながっています。



中玉高糖度トマト



チーズ

(経済流通課)

○ 道の駅を拠点とした陽莓の新たな取組

- 令和2(2020)年度に開始した道の駅ましこを拠点とした「陽莓(ひなたいちご)」の輸出は、海外バイヤーから一定の評価が得られました。
- 令和3(2021)年度は、取引価格向上のため、新たに「贈答用規格」による輸出を開始しました。
- また、町外の2名の生産者が新たに参画し、計4名となったことで輸出数量が増加しており、今後も更なる輸出拡大が期待されます。



新たな贈答用規格



生産者と輸出事業者の検討

(経済流通課)

(4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

②-3 農産物の輸出拡大 ※トピックス(3)と関連

○ UAEにおける「にっこり」プロモーション

- これまでの市場調査やテストマーケティングの結果に基づき、「にっこり」の需要が見込めるUAEの大型ショッピングモール内での試食販売を実施しました。
- さらに、茨城県や群馬県が行う現地レストランでのフェアに、デザートとして「にっこり」を提供するなど、北関東3県で連携したプロモーションを実施し、PRに加え、購入促進につなげました。



試食販売の様子



3県連携のポスター

(経済流通課)

○ とちぎ和牛の輸出拡大に向けた連携

- 牛肉の輸出拡大に向けて、とちぎ和牛の生産者、輸出事業者、食肉処理施設等で構成する「とちぎ牛肉輸出拡大コンソーシアム」を設立しました。
- 米国で開催された食品見本市に「とちぎ和牛」を出品し、現地の実需者向けに試食提供やPRを行いました。
- また、相手国が求める動物福祉に配慮した牛の取扱い方法も検討するなど関係者の連携を強化し、輸出拡大に向けた取組を進めています。



見本市での栃木ブースの様子



見本市で提供した牛丼

(経済流通課)

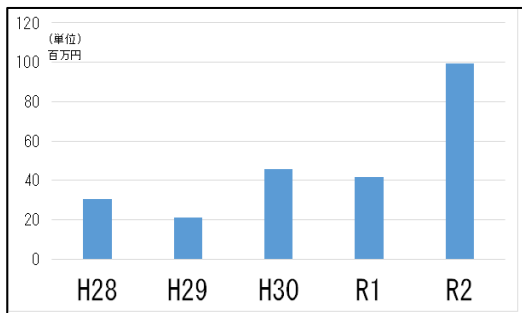
(4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

②-4 農産物の輸出拡大 ※トピックス(3)と関連

○ 米輸出が拡大

- 令和2(2020)年度のコメの輸出実績は約9,900万円となり、前年度と比較すると約2倍に増加しました。
- 令和3(2021)年度からは、①多収米「にじのきらめき」の香港向け輸出(安足地域)、②「とちぎの星」のパックご飯の東南アジア向け輸出(上都賀地域)が新たに取り組まれました。
- 引き続き、県産米の輸出拡大に向け、産地の取組を支援していきます。



栃木県産米の輸出実績



とちぎの星のパックご飯
(経済流通課)

○ 農産物の輸出支援(河内地域)

- とちぎ農産物戦略的輸出拡大事業により、香港向け試験輸出(いちご、ほうれんそう)及びタイ向け資材導入(いちご)を支援しました。
- また、令和4(2022)年産の米の輸出に向け、研究会の設立及び輸出米の低コスト生産技術を実証するプランの作成を支援しました。
- 今後も、輸出拡大を図る産地の取組を支援していきます。



専用箱で輸出された
ミルキーベリー



タイでの販売
(河内農業振興事務所)

(4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

②-5 農産物の輸出拡大 ※トピックス(3)と関連

○ パックご飯の試験輸出(上都賀地域)

- 鹿沼市の大規模土地利用型農業を経営する法人Wは、平成30(2018)年からシンガポールへの米の輸出に取り組んできました。
- 令和3(2021)年度は「米輸出拡大支援事業」を活用し、「とちぎの星」のパックご飯の開発とそのテストマーケティング(カンボジア等)に取り組みました。
- パックご飯の輸出は県内初の試みですが、手軽に調理することができるため、米輸出の一方策として期待されます。



「とちぎの星」パックご飯



現地での販売風景
(上都賀農業振興事務所)

○ 青果物輸出のテストマーケティングを支援(下都賀地域)

- 下都賀地域は県内屈指の園芸地域で、いちごや梨(にっこり)などが主に東南アジアに輸出されています。
- 園芸作物の戦略的な輸出拡大の取組をさらに進めていくため、生産者から要望のある品目(いちご新品種「ミルキーベリー」や「とちあいか」、さつまいもやトマトなど)の輸出促進のため、試験的に輸出の支援を行いました。
- 今後は、到着時の品質や現地での反応などを検証し、本格的な輸出に結びつくよう引き続き支援していきます。



アメリカでの販売状況(いちご)

(下都賀農業振興事務所)

(4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

③-1 次世代を見据えた研究開発の推進

○ あじさい育成品種が全国品評会でベストフラワーを受賞

- ・ 県オリジナルの八重咲き性あじさいの新品種「パラソルロマン」「エンジェルリング」「プリンセスリング」を育成しました。
- ・ 母の日に出荷するための摘心時期や、赤色発色が良くなるりん酸質肥料の施用量を明らかにしました。
- ・ 「パラソルロマン」は、2021年度ジャパンフラワーセレクション(全国品評会)においてベストフラワーを受賞しました。



パラソルロマン



エンジェルリング (左) と
プリンセスリング (右)

(農業試験場)

○ ももを加害するクビアカツヤカミキリの発生生態の解明と防除技術の実証

- ・ ももに甚大な被害を及ぼす特定外来生物クビアカツヤカミキリの生態・生活環を解明しました。
- ・ 研究成果をもとに防除適期や有効薬剤を決定し、防除体系の効果を現地で実証した結果、登録薬剤の成虫防除に対する有効性を確認しました。
- ・ ももの生産安定のため、さらに効果的な防除技術開発を進めます。



クビアカツヤカミキリの
成虫



クビアカツヤカミキリ幼
虫による被害

(農業試験場)

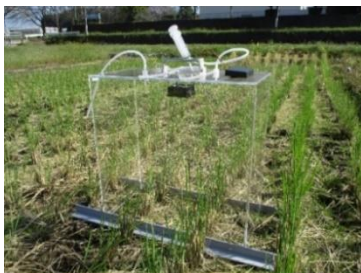
(4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

③-2 次世代を見据えた研究開発の推進

○ 水田からの温室効果ガス(メタン) 排出削減に向けた試験を開始

- 農林水産業から排出される温室効果ガスの約25%が稲作由来のメタンといわれています。
- メタンガスは水管理により排出を抑えられますが、今後、農業者の高齢化や経営の大規模化が進むと、人手による適切な水管理が困難になることが予想されます。
- そこで、ICTを活用した自動水管理システムを活用し、メタンガスの排出削減と労力コスト削減を両立できる技術の開発に取り組んでいます。
- これまでの試験結果から、水管理の調整によって排出を削減でき、削減効果は管理方法で異なることがわかりました。



水田におけるメタンガスの採取

(農業試験場)

○ 第62回全国家畜保健衛生業績発表会で農林水産大臣賞を受賞

- 農林水産省主催の第62回全国家畜保健衛生業績発表会において、県央家畜保健衛生所職員が発表した「つなぎ飼い酪農家における牛伝染性リンパ腫ウイルスの清浄化事例」が、最上位の農林水産大臣賞を本県として初めて受賞しました。
- 牛飼養農場の経済負担を抑えつつ、牛伝染性リンパ腫を清浄化する衛生プログラムの普及により、本病の清浄化について一層の推進が期待されます。



県庁で開催した受賞報告会の様子

(畜産振興課)

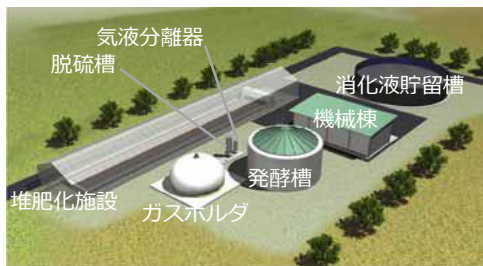
(4) 選ばれる栃木の農産物の実現

農産物のプロモーションや輸出などブランド価値の深化を図り、「選ばれる栃木の農産物」の実現を目指します。

③-3 次世代を見据えた研究開発の推進

○ 畜産バイオガスプラントの長期的稼働に関する実証の取組

- 畜産酪農研究センターでは、平成20(2008)年から、家畜ふん尿をエネルギーとして活用し地球温暖化防止等にも貢献できる、バイオガスプラントの実証試験に取り組んできました。
- この取組は、「みどりの食料システム関連技術カタログ」に掲載されるなど、近年再度注目されています。
- バイオガスプラントは、発電をしながらふん尿処理をする施設であり、長期的な安定稼働が重要となります。
- そこで、今後は、長期的稼働に関する実証を進めていきます。



バイオガス
プラント全景

(畜産酪農研究センター)





2 主な施策の取組状況

重点戦略3 呼び込み・拓く



(5) 農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

①-1 農村地域における関係人口の創出・拡大

○ 自宅で農村体験ができる「おうちでおためしキット」を開発・販売

- ・ コロナ禍において、在宅の農村ファンを創出するため、農村地域で実施している体験メニューが自宅で楽しめる「おうちでおためしキット」の開発・販売を支援しました(下表の10商品)。
- ・ キットには、実際に農村を訪れて農産物の収穫や釣り等を楽しんでいただくための体験チケットも同封されています。



【おうちでおためしキット10商品】

- ・ 多肉植物寄せ植えキット
- ・ 和紙の「押し絵」セット
- ・ そば作りセット
- ・ 手作りいちごジャムキット
- ・ 手作り巨峰ジャムキット
- ・ おうちでおふくちゃんセットキット
- ・ 自家製バター作りキット
- ・ テンカラ毛針作りキット
- ・ 手作り豆腐セットキット
- ・ まゆクラフトセット

(農村振興課)

○ 農村と人のご縁をつなぐ交流サイト「TUNAGU(つなぐ)」

- ・ とちぎの農村と、農村や地域貢献に関心のある人や企業等をマッチングする交流サイトを開設しました(令和3(2021)年10月)。
- ・ 交流サイトで希望する活動に応募し、地域住民との活動や交流を重ねながら、農村ファンになってもらう仕組みです。
- ・ 活動を「クエスト」と名付け、ゲーム感覚でクリアする課題として設定し、若者が興味を持ってもらえるよう工夫しています。



TUNAGU トップページ



竹林整備活動に参加する若者

(農村振興課)

(5) 農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上
 機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

①-2 農村地域における関係人口の創出・拡大

○ ひと×コト×sakana 栃木PRアンバサダー

- 栃木の漁場を愛する影響力の高い釣り人の方々を農村振興課SNS「ひと×コト×sakana」のPRアンバサダーとして任命しました。
- アンバサダーの方々には、釣りを通して、県内各地域の魅力や実力を積極的にPRいただいております。
- 栃木の魅力的な水産資源を活用して、釣り人で溢れる地域づくりを目指します。



ひと×コト×sakana 栃木PRアンバサダー
 栃木をこよなく愛する様々なスタイルのアンバサダーの方々と魚を通じて、栃木の新たな魅力を発信していきます。



アンバサダー紹介ポスター



アンバサダーによる投稿

(農村振興課)

○ なががわ水遊園 開園20周年

- 栃木県なががわ水遊園は、令和3(2021)年7月15日に開園20周年を迎えました(総入館者数500万人達成)。
- 20周年を記念した式典と企画展は、本県が誇る那珂川と川魚の魅力を、多くの方々に改めて感じていただく機会となりました。
- 施設リニューアルにより魅力度もアップ。今後も自然とのふれあいや都市農村交流の拠点として地域に貢献していきます。



20周年記念式典の様子



那珂川と日本の淡水魚をテーマにした企画展

(農村振興課)

(5) 農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

①-3 農村地域における関係人口の創出・拡大

○ 満員御礼！河内のグリーン・ツーリズム(河内地域)

- グリーン・ツーリズムのイベントチラシを年2回作成し、河内教育事務所を通じ管内の小学生全員に配布しています。
- 令和3(2021)年度は1事業者が新たに参画しました。どのツアーも盛況で、日程を追加するなどして参加者の増加に対応しています。



グリーン・ツーリズム イベントチラシ



農業体験ツアー

(河内農業振興事務所)

○ 食の街道と観光いちご園との連携によるSLイベントの実施(芳賀地域)

- いちごの日(令和4(2022)年1月15日)に、いい芳賀いちご夢街道のキャラクターをヘッドマークに付けた「おとちゃんいちごSL」と、益子町観光協会の「駅からいちご狩り」のコラボ企画を実施しました。
- 乗客に「駅からいちご狩り」の対象観光いちご園の割引券を配布し、いちご園への誘客を促しました。乗客の半数以上の方に観光いちご園をご利用いただき、地域内の周遊につながりました。



おとちゃんいちごSL



いちごの駅 北山駅

(芳賀農業振興事務所)

(5) 農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

①-4 農村地域における関係人口の創出・拡大

○ いちご狩り写真投稿キャンペーンの実施(芳賀地域)

- ・ 新型コロナウイルスの影響で昨年度の利用者が大幅に減少した観光いちご園への誘客を図るため、SNS(Instagram)を活用したPRを実施しています。
- ・ いちご狩り写真投稿キャンペーンでは、年齢や地域を絞ったターゲティング広告を配信し、効果的なPRを行いました。



Instagramで発信！



キャンペーンチラシ

(芳賀農業振興事務所)

○ 現地集合・現地解散型グリーンツーリズムの実施(塩谷南那須地域)

- ・ 新しい生活様式に対応したグリーンツーリズムの一形態として、(一社)きつりずむが現地集合・現地解散型の周遊ルートの設定とツアーを実施しました。
- ・ 10組24名の参加者は、案内マップ等をもとに自家用車で体験ポイント間を移動し、ソーシャルディスタンスを保ちながら、木工体験やりんご狩り、喜連川の城下町散策などを楽しみました。



一輪挿しなど木工体験を実施



観光りんご園での摘み取り体験

(塩谷南那須農業振興事務所)

(5) 農村地域の活性化

①-5 農村地域における関係人口の創出・拡大

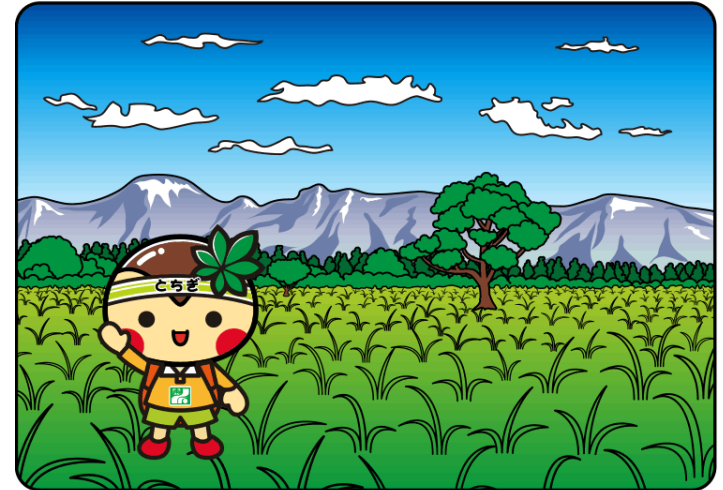
○ 塩原アウトドア関係者連絡協議会の設立(那須地域)

- 令和3(2021)年6月、アウトドア関係事業者を中心に、観光関係者、グリーン・ツーリズム実践者等を構成員として協議会が設立されました。
- 協議会では、アウトドアと農業、観光が連携した受入体制の整備やツアーの実施など、アウトドアを塩原地区の農村環境の維持発展、地域活性化に結びつける仕組みづくりを目指しています。



先進地視察のようす

(那須農業振興事務所)



(5) 農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

②-1 農村地域での新たな所得向上機会の創出

○ 「とちぎの農村めぐり2021」による農村の魅力発信

- オリジナルキャラクターの村野兄妹が「栃uber(とちゅーばー)」となって、とちぎの農村の魅力と楽しみ方を紹介する動画を配信しました(156万回再生)。
- 農産物直売所や農村レストランをはじめとした農村地域の魅力スポットをめぐる「農村わくわくスマホラリー」を実施し、多くの人にとちぎの農村の魅力を伝えることができました(2回、延べ145施設、1,888人参加)。



公開した動画

ぜひフォロー
してください♪



InstagramのQRコード

(農村振興課)

○ 農業高校生等がグリーン・ツーリズムを学ぶ「入門塾」の実施

- 将来、グリーン・ツーリズムに携わる人材の確保・育成を図るため、グリーン・ツーリズムの現状や魅力を学ぶ「入門塾」を実施しています。
- 令和3(2021)年度は、農業高校生・農業大学校生に加え、大学生や社会人を対象に12回開催しました。
- 受講者からは、「将来、地元で取り組んでみたい」、「農業を通して人と関わることに魅力を感じた」といった意見が出されました。



講座の様子



現地視察の様子

(農村振興課)

(5) 農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

②-2 農村地域での新たな所得向上機会の創出

○ 栃木県グリーン・ツーリズムネットワークに分科会を設置

- ・ 栃木県グリーン・ツーリズムネットワークは、グリーン・ツーリズム実践者を中心に構成される組織です(会員数150)。
- ・ 今後のグリーン・ツーリズム推進と会員間の連携強化を目的に、新たなツーリズム及び県外プロモーションを研究テーマとした2つの分科会を設置しました。
- ・ 農村地域への誘客促進に向け、体験コンテンツの充実や効果的なプロモーションの重要性について話し合いました。



分科会での検討の様子



メンバーが活動するフィールドでの検討の様子

(農村振興課)

○ SNSによる農業・農村の魅力発信(河内地域)

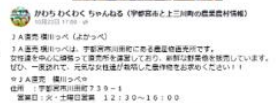
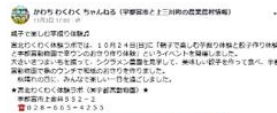
- ・ 河内農業振興事務所は、Facebook「かわちわくわくちゃんねる」による情報発信に取り組んでいます。
- ・ 令和3(2021)年度は、地域内の食と農に関する取り組みなどを月10~20件程度投稿し、リーチ数は増加傾向です。



かわちわくわくちゃんねる (宇都宮市と上三川町の農業農村情報)



Facebook「かわちわくわくちゃんねる」



(河内農業振興事務所)

(5) 農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

②-3 農村地域での新たな所得向上機会の創出

○ 農泊等の受入体制強化(上都賀地域)

- 鹿沼市では、令和3(2021)年5月3日に市や市観光協会、グリーン・ツーリズム実践者等をメンバーとした「かぬまいい旅推進協議会」が設立されました。
- 市内の地域資源を活用し、市の大部分を占める農山村地域を中心に地域の活性化を図るため、農泊取組の検討を進めています。
- 今後実践活動として、都市住民を対象としたモニターツアーを行う予定です。



農泊推進会議



地域資源調査

(上都賀農業振興事務所)

○ 農業者等とホテル事業者の連携に向けたマッチング活動(上都賀地域)

- コロナウイルスの影響によりホテルの客層が団体客から個人客へシフトしつつあるといわれ、宿泊事業者は個人客の農業体験ニーズの把握や掘り起こしに関心を示しています。
- そこで、日光市のグリーン・ツーリズムを実践する農業者への現地視察会等により、農業者等と宿泊事業者の連携に向けたマッチング活動を行いました。
- 今後、それらの連携による体験プログラムの開発を検討していきます。



現地視察会①



現地視察会②

(上都賀農業振興事務所)

(5) 農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

②-4 農村地域での新たな所得向上機会の創出

○ スマートフォン等を活用した動画発信研修会の開催(芳賀地域)

- ・ 農業者や観光農園の経営者等が、農村の魅力や商品を効果的にPRする方法を身につけるため、利用の広がる動画編集の研修会を開催しました。
- ・ 第1回はスマートフォンを使用し、撮影から編集、発信まで完結できる手法を、第2回はパソコン使用し、動画編集技術を中心に講義と実技を行いました。
- ・ 参加者からは、研修はとてもわかりやすく、今後に生かしたいなどの意見が多く大変好評でした。



研修会の様子



個別指導の様子

(芳賀農業振興事務所)

○ ECサイト活用による「ご当地お宝便」の取組(塩谷南那須地域)

- ・ 塩谷地域食の街道推進協議会では、インターネットを活用した特産品の販売促進と地域の魅力発信として「ご当地お宝便」の企画、実施に取り組みました。
- ・ 塩谷地域の4市町の地域特産品を詰め合わせたコラボ便の商品構成検討や、オンラインでの受注から発送、代金決済までの仕組みを新たに構築しました。



道の駅関係者を交えた地域特産品の商品構成検討



ご当地お宝便の販促リーフレット

(塩谷南那須農業振興事務所)

(5) 農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

②-5 農村地域での新たな所得向上機会の創出

○ 北那須産直連絡会イベントの開催(那須地域)

- ・ 那須地域では、ご先祖様を迎えるための行事の一つとして、毎年8月1日にたんさんまんじゅうを作ってお供えし、自分たちも食べるという風習があります。
- ・ 北那須産直連絡会では、那須地域の風習をPRするため、管内の直売所で販売するたんさんまんじゅうを栃木県職員生活協同組合のイベントコーナーで販売し、200個がすぐに完売となりました。
- ・ 今後も北那須産直連絡会の活動を支援していきます。



販売の様子
(那須農業振興事務所)

○ 那須の菜の花プロジェクトで菜種油の活用を検討(那須地域)

- ・ 那須の菜の花プロジェクトでは、菜の花による景観形成で誘客を図り、都市農村交流を進めてきました。
- ・ 令和3(2021)年度は、菜の花の新たな活用方策を探るため、採取した菜種から菜種油を搾油しました。
- ・ 菜種油を使った料理をマラソン大会参加者に試食してもらい、アンケート調査を実施しました。
- ・ アンケート結果を活かし、今後の活用(販売・利用)方策を検討しています。



菜種油



菜の花畑

(那須農業振興事務所)

(5) 農村地域の活性化

移住・定着につながる新たな農村ファンや新たな所得向上機会の創出など、農村地域の活性化を図ります。

②-6 農村地域での新たな所得機会の創出

○ 中山間地域の農業振興に向け、青パパイヤ活用のレシピを開発(安足地域)

- 中山間地域での振興のため、鳥獣害に遭いにくい作物の一つ、青パパイヤが佐野市を中心に約2.3ha栽培されています。
- 青パパイヤは消費者になじみが薄い食材であることから、安足農業振興事務所では手軽に調理でき、若者に人気のあるサンドイッチのレシピ開発をしました。開発協力店では、一か月に250個売り上げる人気商品となりました。



人気商品のソムタムサンドイッチ



青パパイヤ

(安足農業振興事務所)

○ 「閑援隊」の協働活動による佐野市中山間地域の活性化(安足地域)

- 中山間地域である佐野市閑馬地区の活性化を目指し、地域住民が中心となり「閑援隊」が結成されました。
- 「閑援隊」は、遊休農地を利用し、田植え、稲刈り、甘茶の栽培、山羊の放牧などの協働活動を通じ、住みやすい環境づくりに取り組んでいます。
- これらの活動は、SNSやPR動画にて発信し、地域の魅力向上を図っています。



田植え



動画撮影風景

(安足農業振興事務所)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

①-1 担い手が活躍する生産基盤の整備

○ 農地情報バンクを活用して遊休農地を解消（安足地方）

- 足利市農業委員会では、遊休農地の解消・発生防止・有効利用を図るため、農地の売買・貸出希望情報を発信するWEBサイト「農地情報バンク」を平成30(2018)年7月に開設しました。
- これまで登録された約4.0haの遊休農地のうち、約2.1haが再生利用されています。
- 足利市北郷地区では、新規就農者により、約80aの遊休農地が解消され、水稻の作付けが行われました。



再生前



再生後

(農政課)

○ 土地改良区(連合)の会計処理に係る緊急点検の実施

- 土地改良区(連合)の更なる運営の適正化を図るため、県内全ての土地改良区等を訪問し、通帳や現金の保管状況等についてチェックリストを用いて集中的に点検し、適正な会計処理の実施について指導・助言を行いました。
- 今後も、土地改良区(連合)に対して、財務状況を正確に把握するための複式簿記会計や、不正防止に向けた外部監査等の導入を促進し、土地改良区(連合)の運営の適正化に取り組んでいきます。



聞き取りによる
会計処理状況の確認

適正な会計処理のためのチェックリスト

番号	項目	状況	チェック欄	備考
①	会計担当課(会計担当者が不在の場合は、専事長等)は、全ての会計について、関係者の会計処理等と現金預金及び債権債務の取合を把握しているか。(会計規則第42条)			
②	関係の職員を監視している土地改良区等においては、専事長の専断及び権限の範囲を全ての会計について、事務職員に知らせる必要があるか。			
③	会計等の備出・納入、金庫の取替の届出・届込及び取替口の取替について、専事長の承認を得ているか。(会計規則第25条)			
④	不適正な会計処理が行われていないかを、確認しているか。(会計規則第48条) また、関係の専断等に関する取合は、確認しているか。			
⑤	現金通帳(現金簿)、収支簿、印中簿、口座振替の取合等とは別に債権簿への取合等も、連日又は毎週更新を確保しているか。また、印中簿は毎週更新を確保しているか。			
⑥	専断等を有している場合は、関係は会計課等に渡し、監査の必要措置がとられているか。また、取合を行う重要書類を適切に保管しているか。(会計規則第30条)			
⑦	前年度決算は、担当課に任せることなく、専事長や会計担当課、移り職員等、関係者の協議による確認を行っているか。			
⑧	守形課、沼津支庫(6~8月、12~2月を除く)等において、現金通帳(受取印書等含む)、銀行等の印字用紙(現金簿等)と金庫出納簿との取合を全ての会計について実施しているか。(会計規則第30条)			
⑨	通帳と金庫出納簿の入社会の簿類を整合しているか。			

*このチェックリストは、県一環営する事業ではありません。土地改良区関係での確認にご留意ください。

83.10 栃木県農林振興事務所

通帳・公印等の
保管状況のチェック
(農地整備課)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

①-2 担い手が活躍する生産基盤の整備

○ 次世代型生産基盤技術導入指針の活用による基盤整備の推進

- 将来にわたって担い手が活躍できる生産性の高い基盤づくりを推進するため、「ほ場の大区画化」や「ICTを活用した水管理システム」などのスマート農業に対応した次世代型の生産基盤技術を導入できるよう指針を策定しました。
- 今後は、指針に基づき、市町や土地改良区等に対し、研修会や動画の活用により、技術への理解促進を図りながら、スマート農業に対応した基盤整備を計画的に進めていきます。

次世代型生産基盤技術導入指針

～将来にわたって担い手が活躍できる
生産性の高い基盤づくりを目指して～



指針の紹介動画
についてはこちら
をご覧ください

農政部Youtubeチャンネルに
指針の紹介動画を掲載



大区画ほ場でのロボットトラクター
2台協調作業（下野市）

（農地整備課）

○ 鹿沼市土地改良区設立(上都賀地域)

- 事務処理を統合し、専任の職員を配置することにより、業務の質的向上が図られ、また、総会や理事会が一本化され、運営経費や事務労力の低減が図られています。
- 組織運営基盤の一体化により、計画的かつ効率的な維持管理体制を確立するとともに、災害時における緊急的な工事に対する体制強化につながっています。



合併予備契約調印式
(令和2(2020)年9月)



土地改良区理事会

(上都賀農業振興事務所)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

①-3 担い手が活躍する生産基盤の整備

○ 手上げ方式による自動給水システムの導入（芳賀地域）

- 芳賀町北部第2地区では、ほ場整備に併せ、水管理の省力化が図れる自動給水システムの導入を進めています。
- 推進に当たっては、システムの効果を周知するため、勉強会や事業説明会を開催し、農業者の関心を高めました。
- 令和4(2022)年度産からは、希望のあった担い手5名・約7haへの導入が決まり、こうした事例を広く周知することにより、引き続き、地区への導入を促進していきます。



担い手を対象とした勉強会での実演



地元説明会による手上げ方式の説明

(芳賀農業振興事務所)

○ 県営ストマネ事業による国営芳賀台地施設の機能保全(芳賀地域)

- 国営かんがい排水芳賀台地地区(平成14(2012)年度完了)に整備された菅又揚水機場は、造成から約20年が経過し、経年劣化が進んでいました。
- このため、機能診断計画に基づき、令和3(2021)年度に菅又揚水機場の整備補修を実施しました。
- 今後とも計画的に施設の機能を保全し、長寿命化を図ることで、維持管理を含めたライフサイクルコストの低減を図ります。



ポンプ据付確認



操作盤類機能診断

(芳賀農業振興事務所)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

①-4 担い手が活躍する生産基盤の整備

○ 芳賀台地の水で潤う農業（芳賀地域）

- ・ 国営芳賀台地地区は、市貝町外1市3町に跨る水田、畑地の用水不足を解消するため、昭和62(1987)年度～平成14(2012)年度に整備されました。
- ・ 地区内の関連事業として、令和3(2021)年度は里西・星の宮地区で県営ほ場整備事業の計画作成に取り組んでいます。
- ・ 取組の一環として、地区内にかんがい水を使った展示ほ場を設置し、畑地への園芸品目の導入を推進しました。



推進展示ほ場



いもほり大会

(芳賀農業振興事務所)

○ 県営塚崎・東野田(区画整理)事業権利者会議を開催(下都賀地域)

- ・ 小山市南西部に位置する塚崎・東野田地区では、平成27(2015)年度から区画整理事業98.7haが実施され、低コスト農業の展開が可能となる条件整備を図るとともに担い手の育成及び農地集積を行ってきました。
- ・ 令和3(2021)年度は、事業により整備された土地の権利を確定するための権利者会議が開催され、出席者272人全員の賛成により換地計画決定の議案が可決されました。
- ・ 今後は、換地処分及び登記に向けた手続を進めていくこととなります。



権利者会議の様子



整備されたほ場

(下都賀農業振興事務所)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

①-5 担い手が活躍する効率的な生産基盤の整備

○ 水利施設の改修による生産基盤の整備（塩谷南那須地域）

- 日光市高德の鬼怒川に設置された船生頭首工や引水している船生用水、平作堀用水は、老朽化により通水機能が低下しています。
- 令和元(2019)年から改修工事に着手し、農業用水の安定供給を図っています。
- この事業を契機に、担い手農家への農地集積や、高収益作物の作付け面積を増やすこと等により、安定的な農業経営を図ることとしています。



改修前（現在）の船生頭首工及び船生用水

（塩谷南那須農業振興事務所）

○ 暗渠型排水路の導入推進（那須地域）

- 那須農業振興事務所管内で実施している農地整備事業においては、営農の効率化や維持管理の軽減を図るため、次世代型生産基盤技術である暗渠型排水路を導入しています。
- 令和3(2021)年度には、設置後の路線において土砂の堆積状況について現地検証を実施した結果、土砂の堆積は確認されませんでした。維持管理を行う大田原市土地改良区からも好評で、今後も導入を進めていきます。



暗渠型排水路施工中



暗渠型排水路施工後

（那須農業振興事務所）

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

①-6 担い手が活躍する生産基盤の整備

○ 佐野市の圃場整備の本格化（安足地域）

- ・ 佐野市では、馬門地区に続き令和3(2021)年度から赤城地区においても圃場整備が開始されました。
- ・ 全体整備面積は馬門48.9ha、赤城36.4haで、本年度は2地区で面工事が実施されました。
- ・ 今後、圃場整備と合わせ、情報通信技術(ICT)を活用したほ場水管理システムを導入し、効率的な営農が展開される予定です。



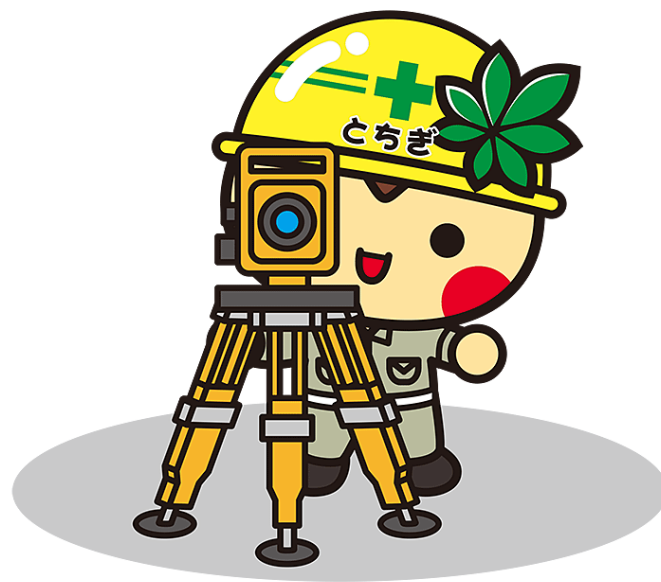
整備前後の馬門地区

※東西に走る農道から北が整備後、南が整備前



赤城地区の起工式

(安足農業振興事務所)



(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

②-1 地域資源の保全と活用

○ 高機能草刈機のデモンストレーション(小山市 思川西部農村環境保全会)

- 令和3(2021)年10月18日に、多面的機能支払活動における草刈り作業の省力化や安全性の確保に向け、高機能草刈機(リモコン式、トラクタ装着式、乗用式、手押し式など6種類)の実演会を開催しました。
- 参加者からは、「作業負担の軽減や作業の効率化に向けては、高機能草刈機の導入や共同利用が必要」との声が聞かれ、今後の草刈機等の導入により、作業の更なる省力化につながることを期待されます。



メーカーによる草刈機の説明



草刈機の実演

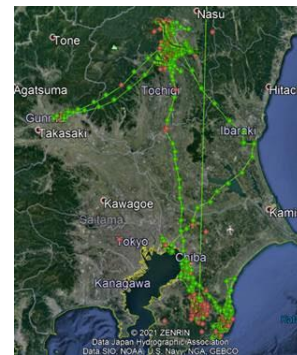
(農村振興課)

○ GPSロガーを使用したカワウの調査

- アユやマス類などを捕食するカワウへの効果的な対策を検討するため、GPSロガーを用いた行動範囲調査を行いました。
- カワウは、時期ごとに餌場とする河川を使い分けていることや、中には季節ごとに関東平野を広く移動するものがあることが明らかになりました。
- 今後は、漁協の範囲をまたいだ協力や関東各都県との連携の強化を進めます。



GPSロガーを装着したカワウ



カワウの行動範囲

(農村振興課)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

②-2 地域資源の保全と活用

○ 農業被害防止サポーター事業の開始

- 鳥獣による農作物被害対策については、品目や獣種、地域の実情等に応じて適切な対策を講じる必要があります。
- このため、農業者等からの相談に迅速かつ的確に対応できるよう、鳥獣管理士などの専門家を派遣し、具体的な対策について指導・助言を行っています。
- 令和3(2021)年度は、11地区に専門家を派遣し、侵入防止柵の新設や設置場所等の改善、集落ぐるみによるサルの捕獲等の取組などが開始されています。



講習会への鳥獣管理士派遣 鳥獣管理士によるわな設置指導

(経営技術課)

○ 畜産環境研修会の開催

- 堆肥の生産技術向上や、環境負荷軽減等の新たな技術の共有を目的として、オンライン研修会を開催しました。
- 研修会では、畜産現場における堆肥生産技術のポイントや、昨今の肥料制度改正に伴う堆肥の流通拡大についての講演と、アミノ酸バランス改善飼料給与による温室効果ガス削減の取組及び牛ふんペレット堆肥の事例を紹介しました。
- 今後は、堆肥の利用拡大を始め、環境負荷軽減についても技術の普及に努め、畜産経営の持続的発展を支援していきます。



オンライン研修会の様子

(畜産振興課)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

②-3 地域資源の保全と活用

○ 多面的機能支払交付金の災害復旧活動への活用(芳賀地域)

- 益子町では、令和3(2021)年7月10日～12日の大雨により、畦畔や道路法面の崩落など、小規模な災害が多数発生しました。
- 個人や集落で管理している農地や水路などに発生した小規模な災害に対して、多面的機能支払交付金を活用した共同活動に取り組んだことで、いち早く復旧が進み、早期の営農再開につなげることができました。



畦畔の被災状況



地域共同による復旧作業

(芳賀農業振興事務所)

○ きめ細かな鳥獣害対策支援(塩谷南那須地域)

- 増加する鳥獣害対策として、獣類の特定や出没状況を把握するためのセンサーカメラの設置支援を行いました。
- また、鳥獣管理士と連携し、研修会、現地検討会を開催するとともに、集落点検による課題抽出と被害対策への意識の醸成、対策実施計画の立案に対し助言を行いました。
- 塩谷町では、害獣の侵入防止柵(ワイヤーメッシュ柵)整備に取り組み、被害が減少しています。



ドローンでの出没状況確認



集落点検活動

(塩谷南那須農業振興事務所)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

③-1 農村地域の防災力の向上 ※トピックス(4)と関連

○ 農村地域の雨水流出抑制対策を推進

- 流域の関係者が一体となって、営農への影響を踏まえ、農村の「ためる」機能に着目した雨水流出抑制対策(河川に一気に雨水を流さない対策)を進めています。
- 令和3(2021)年度は、河川管理者や専門家を加えた検討会を開催し、思川流域の一部における基本指針(素案)を作成しました。
- 今後5年間で県内3流域(田川・思川・荒川)におけるハード・ソフト対策の計画的な実施に向けた検討を進めていきます。



農村の「ためる」イメージ



基本指針策定検討会

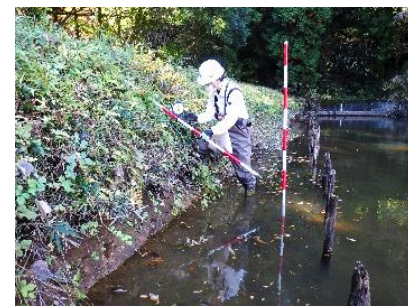
(農地整備課)

○ 「防災重点農業用ため池」の健全度評価の実施を支援

- 決壊した場合に下流域に大きな被害を及ぼす恐れがある「防災重点農業用ため池」(180施設)を対象に、市町による健全度評価の実施を支援しました。
- 113施設の評価の結果、対策工事が必要とされたため池については、管理者による対応が着実に実施されるよう、必要な支援を行うとともに、引き続きすべてのため池の評価を進めていきます。



堤体地盤状況の確認
(ボーリング調査)



堤体浸食状況の確認
(堤体断面測量)

(農地整備課)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

③-2 農村地域の防災力の向上 ※トピックス(4)と関連

○ 「とちぎため池保全サポートセンター」が開所

- 令和3(2021)年7月、水土里ネットとちぎ内に「とちぎため池保全サポートセンター」が設置されました。
- サポートセンターには、専門の技術者による相談窓口が設置され、施設管理者を対象に、ため池の補修や点検、管理体制づくりなどへの助言や災害の未然防止に向けた技術指導等を行っています。
- 県では、今後ともサポートセンターの活動を支援するとともに、農業用ため池の防災対策強化に向けた取組を推進していきます。



サポートセンター開所式

(農地整備課)

○ 農村地域の防災・減災を担う西前原排水機場が完成(下都賀地域)

- 令和3(2021)年12月、施設が老朽化し排水能力が低下していた西前原排水機場の改修工事が終わりました。
- 排水機場は、集中豪雨などの猛烈な雨が降った時に農村地域の湛水被害を防止する重要な役割を担っています。
- このため、新しくなった西前原排水機場の機能が十分発揮できるよう、日常の維持管理や、水路へのゴミ捨て防止の周知など、地域ぐるみの取組を進めていきます。



外観



内部

新しくなった西前原排水機場

(下都賀農業振興事務所)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

③-3 農村地域の防災力の向上 ※トピックス(4)と関連

○ 老朽化施設の改修による災害の未然防止 (塩谷南那須地域)

- ・ 那須烏山市内を流れる一級河川那珂川内に設置している「境堰」は、大雨などによって堰本体が損傷し、農業用水の取り入れができない状態が続いています。
- ・ また、大雨時には堤防決壊による洪水被害など広範囲に被害がおよぶ危険性がありました。
- ・ このため、令和2(2020)年度より改修工事に着手し、令和3(2021)年度に完成しました。



損傷を受けた境堰



改修工事が終わった右岸側

(塩谷南那須農業振興事務所)



(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

④-1 安心して農業や生活ができる農村環境づくり

○ 豊かなむらづくり全国表彰・農林水産大臣賞を受賞(芳賀地域)

- さかがわ協議会は、地域の交流拠点であるいい里さかがわ館の管理運営や焼森山ミツマタ群生地整備等を行っています。
- 令和2(2020)年度にはいい里さかがわ館への来客が約13万人を記録し、地域住民の所得向上や就労機会の創出、生活の利便性向上等、地域の活性化に大きく貢献しました。
- このように、地域活性化の成果をあげたことが高く評価され、農林水産大臣賞を受賞しました。



表彰状授与の様子

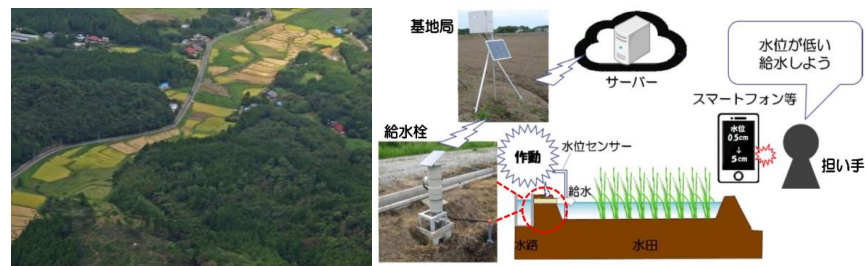


さがわ協議会の代表者

(芳賀農業振興事務所)

○ 中山間地域農業農村総合整備事業茂木地区の事業計画(芳賀地域)

- 中山間地域の傾斜地に適合した圃場や水路の整備を進めることで、優良農地の創出、生産性の向上、耕作放棄地の発生防止、農地の流動化など、次の世代につながる地域農業を目指しています。
- また、農作業の省力化・軽労化を図るため、用水路へのICT自動給水栓の設置などスマート農業技術を積極的に取り入れた事業計画づくりを進めています。



中山間の茂木(菅又)地区 ICT自動給水栓の設置イメージ

(芳賀農業振興事務所)

(6) 安全・安心な栃木の農村づくり

生産基盤や営農環境の整備、地域資源の保全と活用、防災力の向上など、安心・安全な農村づくりを進めています。

④-2 安心して農業や生活ができる農村環境づくり

○ 活性化施設による地域交流促進(塩谷南那須地域)

- ・ 県営中山間総合整備事業(馬頭中部地区)により、令和3(2021)年5月に活性化施設(那珂川町和見)が完成しました。
- ・ 活性化施設は、農業関係者、地域自治会等の活動拠点として利用されています。
- ・ 地域農業の将来等についての話し合いを行うとともに、地域住民の交流の場として地域の活性化に寄与しています。



整備された活性化施設



地元自治会による内覧会
(塩谷南那須農業振興事務所)

○ 道の駅東山道伊王野における組織力・販売力の強化(那須地域)

- ・ 道の駅東山道伊王野では、設立から20年を迎え、持続的な運営体制の強化を図るため、令和5(2023)年の法人化を目指しています。
- ・ また、野菜の出荷量が減る冬期の販売力向上を図るため、令和3(2021)年12月から地元食材を活用したパンの製造・販売を開始しました。
- ・ 今後も地域の拠点施設として、更なる発展が期待されます。



検討会の開催



パンの販売
(那須農業振興事務所)



2 主な施策の取組状況 関連施策



(7) 消費拡大・安全対策の強化

農産物等の安全性の確保や地産地消の推進、食糧の安定供給など消費拡大・安全対策の強化を図っています。

①-1 農産物等の安全性の確保 ※トピックス(5)と関連

○ 農産物直売所を対象としたGAP推進セミナーの開催

- 農業生産における環境保全や食品安全、労働安全等を確保するため、GAP(農業生産工程管理)の取組を推進しています。
- 令和3(2021)年度は、農産物直売所出荷者や開設者など58名を対象に、GAP推進セミナーを開催しました。
- これからも安全な農産物を消費者に提供できるよう、県全域でGAPの取組を推進していきます。



GAP推進セミナーの様子

(経営技術課)

○ 農場HACCPの認証取得を推進

- 令和3(2021)年度に県内の2農場(肥育牛、採卵鶏)が新たに農場HACCPの認証を取得しました。
- 農場HACCPは、農場の飼養衛生管理にHACCPの考え方をとり入れて、生産される畜産物の安全性の確保及び生産性の向上を図るための手法で、令和4(2022)年3月現在、県内の16農場が認証を取得しています。
- 今後も取組農家への支援・指導を実施し、県産畜産物の更なる安心を確保します。



農場、関係者の検討会



認証の現場審査

(畜産振興課)

(7) 消費拡大・安全対策の強化

農産物等の安全性の確保や地産地消の推進、食糧の安定供給など消費拡大・安全対策の強化を図っています。

①-2 農産物等の安全性の確保 ※トピックス(5)と関連

○ 家畜伝染病発生に備えたグループ別防疫演習の実施と実践での対応(上都賀地域)

- 令和3(2021)年末、防疫作業の際に構成されるグループ(連絡調整、集合施設、焼埋却等)ごとに演習を実施、いつ、どこで、何をすべきか再確認を行いました。
- その直後、令和3(2021)年12月26日には、豚熱が発生した宮城県の農場から導入した豚を飼養する日光市の農場において、管内初の防疫措置を実施しました。直前に演習を行っていたこともあり、関係者間の情報伝達等も円滑に行われ、予定通り作業を完了しました。



演習(左)と実際の防疫作業(右)

(上都賀農業振興事務所)

○ GAP推進による農業経営の持続的な発展(上都賀地域)

- 上都賀地域では、JA生産組織に対してGAPの農場点検を推進し、農産物の安全性、信頼性や環境保全、労働安全を確保する取組を実施しています。
- GAPの農場点検は、令和3(2021)年度までに延べ18組織で実施されました。
- また、令和3(2021)年度は鹿沼南高校がGAPに取り組み、ブルーベリーでとちぎGAPの第三者確認証を取得しました。



JA生産組織での農場点検デモ



とちぎGAP第三者確認証交付式(鹿沼南高校)

(上都賀農業振興事務所)

(7) 消費拡大・安全対策の強化

農産物等の安全性の確保や地産地消の推進、食糧の安定供給など消費拡大・安全対策の強化を図っています。

①-3 農産物等の安全性の確保 ※トピックス(5)と関連

○ 有事に備え、家畜防疫演習を開催（下都賀地域）

- 豚熱や高病原性鳥インフルエンザなどの家畜伝染病の発生に備え、防疫対応に万全を期すため、令和3(2021)年度は下野市国分寺聖武館で防疫演習を行いました。
- 市町や関係団体の約50名が参加し、豚熱の発生を想定した集合施設・防疫拠点の設置・運営訓練の他、防護服の着脱や消毒の手順など防疫作業について確認しました。
- 今後も、防疫演習を通じ、有事の際に的確かつ迅速な対応ができるよう備えます。



防疫拠点での演習の様子
(下都賀農業振興事務所)



(7) 消費拡大・安全対策の強化

農産物等の安全性の確保や地産地消の推進、食糧の安定供給など消費拡大・安全対策の強化を図っています。

②-1 食と農の理解促進と県産農産物の利用拡大

○ 若い世代(大学生)への食育

- 教育や栄養指導等に関わる目指す大学生を対象に、食育講座や農業体験を行い、食と農への理解促進を図りました。
- 講話後には、食を巡る課題を踏まえ、学生同士のグループワークを通して、どのように食育に関わっていききたいかなどを話し合いました。
- 参加者からは、「食と農の関係について考えるきっかけとなった」「将来、食の大切さを伝えていきたい」などの感想があげられました。



いちご農家での農業体験



学生同士のグループワーク

(農政課)

○ 県内小中学生向け地産地消動画の作成

- とちぎ地産地消県民運動実行委員会では、児童生徒に農業の大切さや魅力を伝える動画「すごいぞ!!とちぎの農業」を作成し、DVDを県内の全小中学校に配布しました。
- 動画は、本県の主要な農産物の生産風景、県内で活躍する生産者からのメッセージなどで構成されています。
- 子どもたちの給食の時間等における動画視聴を通し、農業への理解促進を図ります。



小中学校に配布したDVD



給食の時間に動画を視聴する児童たち

(農政課)

(7) 消費拡大・安全対策の強化

農産物等の安全性の確保や地産地消の推進、食糧の安定供給など消費拡大・安全対策の強化を図っています。

②-2 食と農の理解促進と県産農産物の利用拡大

○ 県産米の消費拡大

- ・ 県民にお米の良さを知ってもらい、ごはんを食べる機会を増やしていくため、毎月「5」と「8」の付く日を「栃木県民ごはんの日」として運動を展開しています。
- ・ インターネット動画やとちぎ未来大使による情報発信、県内量販店での消費拡大キャンペーンに加え、国体等を目指す未来アスリートへのパックごはん贈呈など、県産米の美味しさと、ごはん食の良さを伝えるJA全農とちぎの取組を支援しました。



パックごはん贈呈式(11月28日)



消費拡大キャンペーンの実施

(生産振興課)

○ “六次郎”(6次産業化商品)販売会(河内地域)

- ・ 「六次郎」とは、河内地域で農業の6次産業化に取り組む農業者が開発した商品の愛称です。
- ・ 令和3(2021)年度が5年度目となる宇都宮東武百貨店での「六次郎販売会」は、新たに2農業者が参加し、消費者の生の意見を聞く貴重な機会となりました。



接客やPRの実践



人気の六次郎商品

(河内農業振興事務所)

(7) 消費拡大・安全対策の強化

農産物等の安全性の確保や地産地消の推進、食糧の安定供給など消費拡大・安全対策の強化を図っています。

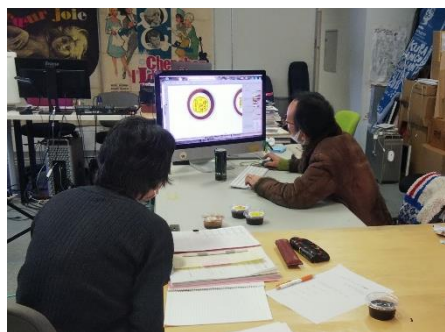
②-3 食と農の理解促進と県産農産物の利用拡大

○ 文星芸術大学と連携した商品づくり(河内地域)

- 「六次郎」を始めとする河内地域の6次産業化商品の洗練されたデザインは、文星芸術大学との連携により実現しています。
- 河内農業振興事務所は、同大学の協力により「ラベルパッケージデザイン研修会」を年2回開催し、毎回5名程度の農業者が新商品の開発を行っています。



デザイン作成例



デザイン研修会の様子

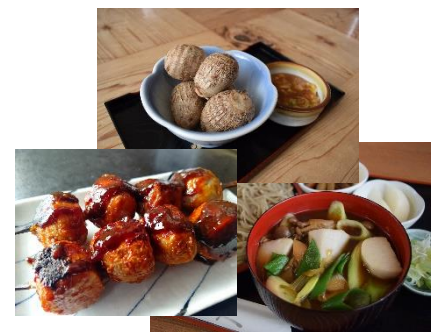
(河内農業振興事務所)

○ さといもメニューフェア開催(上都賀地域)

- 上都賀地域(鹿沼市・日光市)は県内一の“さといも”産地です。
- その“さといも”の魅力を発信するため、新たに「さといもメニューフェア」を開催しました。
- 日光例幣使そば街道加盟店や地産地消推進店など18店舗等でこだわりの“さといも”メニューが提供され、生産者と飲食店等が連携したPRの展開により、“さといも”の魅力発信及び消費拡大につながっています。



「さといもメニューフェア」



多彩なさといもメニュー

(上都賀農業振興事務所)

(7) 消費拡大・安全対策の強化

農産物等の安全性の確保や地産地消の推進、食糧の安定供給など消費拡大・安全対策の強化を図っています。

③-1 食料の安定供給 ※トピックス(4)と関連

○ 高精度な生育予想技術開発をスタート

- 気候変動に対応するため、水稻と梨の生育予測技術の精度向上と新たな被害発生予測技術の開発・実証に着手しました。
- 調査圃場ごとに気象データを測定し、アメダスデータとの比較や、生育データとの関係を再検討し、精度向上を図ります。
- このことで、気候変動に対する迅速な技術対応が可能になり、収量・品質の更なる安定化が期待されます。



圃場における気象データ測定の様相 (左：梨、右：水稻)
(経営技術課)

○ 牧草のセシウム低減試験の取組

- 畜産酪農研究センターでは、安全・安心な畜産物を生産するため、平成23(2011)年から飼料作物への放射性セシウム移行抑制技術の開発に取り組んできました。
- 最近の試験では、草地更新回数を増やすことで放射性セシウムの土壌から牧草への移行を減らせることが確認できました。
- 今後は、加里施肥による牧草のミネラルバランスなどについて研究を進めていきます。



試験ほ場での作業風景



試験ほ場追播の様子

(畜産酪農研究センター)

(7) 消費拡大・安全対策の強化

農産物等の安全性の確保や地産地消の推進、食糧の安定供給など消費拡大・安全対策の強化を図っています。

③-2 食料の安定供給 ※トピックス(4)と関連

○ 「農業水利施設保全管理システム」の公開で適切な保全管理を促進

- 「農業水利施設保全管理システム」には、取水堰や排水機場、ため池などの農業水利施設の位置や補修履歴等がデータベース化されています。
- 施設の適切な保全管理に加え、突発事故や災害時の迅速な対策に役立つため、令和3(2021)年5月からウェブ上で公開しています。



農業水利施設保全管理システムのQRコード



農業水利施設保全管理システムの画面イメージ

(農地整備課)

